
第2期中期目標期間の実績・概要版 (平成26年度～平成29年度 4年間の実績)



平成30年6月

地方独立行政法人 神戸市民病院機構

市民病院機構・各病院位置図



※平成30年1月1日現在の人口

1. 市民病院機構の概要	1
2. 市民病院機構のあゆみ	4
3. 医療機能等指標・主要経営指標の推移	5
4. 病院ごとの取り組み	
神戸市立医療センター中央市民病院	7
神戸市立医療センター西市民病院	11
神戸市立西神戸医療センター	15
神戸市立神戸アイセンター病院	19
5. 優秀な職員の確保と人材育成	20
6. 経営状況について	22
7. PFI事業・市関連病院連携・神戸医療産業都市	26

※ 本文のグラフや表における「H」表記は当該年度を表します

神戸市民病院機構について

◆神戸市民病院機構の目的

- ✓ 地方独立行政法人法に基づき、医療の提供、医療に関する調査及び研究並びに技術者の研修等の業務を行うことにより、市民の立場に立った質の高い医療を安全に提供し、もって市民の信頼に応え、市民の生命と健康を守ることを目的とする。

◆概要

項目	
法人名	地方独立行政法人 神戸市民病院機構
所在地	神戸市中央区港島南町2丁目1番地の11（～平成30年3月31日） 神戸市中央区港島南町2丁目2番地（平成30年4月1日～）
設立年月日	平成21年4月1日
役員数	13名（平成30年3月31日時点）
職員数	3,300名（平成30年3月31日時点）

◆役員名簿（平成30年3月31日時点）

役職		氏名	備考
理事長	常勤	橋本 信夫	
理事	常勤	細谷 亮	中央市民病院長
理事	常勤	田中 修	西神戸医療センター院長
理事	常勤	栗本 康夫	神戸アイセンター病院長
理事	常勤	山平 晃嗣	法人本部長
理事	非常勤	湊 長博	京都大学理事・副学長
理事	非常勤	守殿 貞夫	西宮敬愛会病院長
理事	非常勤	有井 滋樹	浜松労災病院長
理事	非常勤	村上 雅義	先端医療振興財団専務理事
理事	非常勤	鈴木 志津枝	神戸市看護大学長
理事	非常勤	植村 武雄	小泉製麻株式会社会長・神戸商工会議所副会頭
監事	非常勤	藤原 正廣	弁護士（京町法律事務所）
監事	非常勤	岡村 修	公認会計士・税理士 （岡村修公認会計士税理士事務所）

神戸市立医療センター 中央市民病院

◆病院の特徴と役割

一般病床：688	ICU・CCU：22	感染症：10
SCU：12	HCU：28	MPU：8

- ✓ 救命救急センターとして24時間365日体制での救急医療を提供し、脳卒中や急性心筋梗塞、交通外傷等、生命に関わるような重篤な患者を中心に、幅広く患者を受入れる。
- ✓ 地域医療支援病院として地域医療連携の推進に取り組むとともに、高度医療機器の導入等を必要に応じて行い、神戸市全域の基幹病院として専門性の高い高度な医療の提供を行う。



地域医療
支援病院

救命救急センター
指定病院

病院機能評価
認定施設

災害拠点病院

地域がん診療
連携拠点病院

第一種感染症
指定医療機関

総合周産期母子
医療センター

◆基本理念

神戸市立医療センター中央市民病院は、神戸市の基幹病院として、市民の生命と健康を守るため、患者中心の質の高い医療を安全に提供します。

◆基本方針

- ① 患者の生命の尊厳と人権を尊重します。
- ② 十分な説明に基づき、満足と信頼が得られる医療を安全に提供します。
- ③ 基幹病院としての機能を果たすため、高度・先端医療に取り組みます。
- ④ 24時間体制での救急医療を実践します。
- ⑤ 医療水準の向上を目指し、職員の研修・教育・研究の充実を図ります。
- ⑥ 地域の医療・保健・福祉機関との相互連携を進めます。

◆診療科（平成30年3月31日時点）

循環器内科、糖尿病・内分泌内科、腎臓内科、神経内科、消化器内科、呼吸器内科、血液内科、腫瘍内科、緩和ケア内科、感染症科、精神・神経科、小児科、新生児科、皮膚科、外科・移植外科、乳腺外科、心臓血管外科、呼吸器外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、産婦人科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、頭頸部外科、麻酔科、歯科、歯科口腔外科、病理診断科、放射線診断科、放射線治療科、リハビリテーション科、救急部、総合内科

神戸市立医療センター 西市民病院

◆病院の特徴と役割

一般病床：353（うち、地域包括ケア病床：37）	ICU・CCU：5
--------------------------	-----------

- ✓ 市街地西部（兵庫区、長田区、須磨区）の中核病院として、高水準の標準的医療を提供するとともに、内科系・外科系の24時間365日の救急医療体制を継続し、地域住民が安心して暮らせる救急医療の提供を行う。
- ✓ 地域医療支援病院として、近隣の関連機関と緊密な連携を図り、医療と福祉・介護の架橋となるべく、在宅医療を強化する。



地域医療
支援病院

病院機能評価
認定施設

がん診療連携拠点
病院に準じる病院

◆基本理念

神戸市立医療センター西市民病院は、地域の中核病院として、市民の生命と健康を守るために、安全で質の高い心のこもった医療を提供します。

◆基本方針

- ① 患者の人権を尊重し、患者中心のチーム医療を推進します。
- ② 安全管理を徹底し、患者に満足される医療を提供します。
- ③ 救急医療の充実を図り、災害時の医療にも備えます。
- ④ 市民病院群の連携を図り、高度・専門医療を充実させ、急性期病院を維持します。
- ⑤ 地域社会との連携を強化し、在宅医療を支援します。
- ⑥ 医療従事者の職務の研鑽を深め、医療水準の向上に努めます。
- ⑦ 職員の経営参画意識を高め、病院の健全な財政運営に努めます。

◆診療科（平成30年3月31日時点）

消化器内科、呼吸器内科、リウマチ・膠原病内科、血液内科、循環器内科、腎臓内科、糖尿病・内分泌内科、神経内科、総合内科、臨床腫瘍科、精神・神経科、小児科、外科、消化器外科、呼吸器外科、乳腺外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科、病理診断科、放射線科、麻酔科、リハビリテーション科

神戸市立西神戸医療センター

◆病院の特徴と役割

一般病床：415 ICU・CCU：10 結核病床：50

- ✓ 神戸西地域（西区・垂水区・須磨区）に根付いた安心・安全な医療をめざすことを理念とし、神戸西地域の中核病院として、救急医療、高度専門医療、結核医療を安定的・持続的に促進する。
- ✓ 地域連携を促進し、地域完結型医療を目指す。



地域医療
支援病院

病院機能評価
認定施設

地域がん診療
連携拠点病院

結核指定
医療機関

◆基本理念

神戸西地域
に根付いた
安心・安全な
医療をめざし
ます。

◆基本方針

- ① 急性期病院として、マンパワーや設備のさらなる強化に努め、救急医療や高度専門医療を充実させることで地域住民の期待に応えます
- ② 市民病院として、結核医療や災害時の医療に対応します
- ③ 地域の中核病院として、地域連携を促進し、地域完結型医療をめざします
- ④ 市民の生命と健康を守るため、市民病院間相互の協力連携を推進します
- ⑤ 患者さんを中心としたチーム医療を行うとともに、患者さんや家族に対して誠実な態度で接します
- ⑥ 患者さんが納得できるわかりやすい説明を心がけ、患者さんや家族の自己決定権を尊重します
- ⑦ 職員が相互に協力し合い、常に改善を心がけ、医療水準・職場環境・経営体制すべてにおいてさらに誇れる病院を確立します

◆診療科（平成30年3月31日時点）

神経内科、腎臓内科、内分泌・糖尿内科、免疫血液内科、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、腫瘍内科、緩和ケア内科、精神・神経科、小児科、外科・消化器外科、乳腺外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、形成外科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、病理診断科、歯科口腔外科

神戸市立 神戸アイセンター病院

◆病院の特徴と役割

一般病床：30（眼科）

- ✓ 眼科領域の再生医療分野を中心に、様々な分野での最新の医学研究成果等を取り入れた新しい治療を世界に先駆けて享受できる最先端の高度な眼科病院として、標準医療から最先端の高度医療まで高水準の医療を安定的に提供する。
- ✓ 眼疾患に係る臨床研究及び治験推進の臨床基盤としての役割を果たす。



国家戦略特区指定

◆基本理念

神戸市立神戸アイセンター病院は、市民のそして当院を受診する全ての患者さんの眼の健康を守るため、眼科中核病院として標準医療から高度先進医療まで提供するとともに、眼に関するワンストップセンターの核として患者さんの思いを繋げる役割を果たします。

◆基本方針

- ① 安全で質の高い医療を提供し、失明の防止とQOV（見え方の質）の向上につなげます
- ② 世界最先端の高度医療を取り入れ、地域社会・医療機関につなげます
- ③ 医療を通じて、医学研究から生活支援までつなげます
- ④ 患者さんの思いを理解し、希望につなげます
- ⑤ 職種間の一体感を持ち、人が育ち働きがいのある職場づくりにつなげます
- ⑥ 職員一人ひとりが経営感覚をもち、健全な病院運営につなげます
- ⑦ そして、未来につなげます



神戸市民病院機構のあゆみ

平成26年

- 4月 ・ 【中央】中央市民病院創立90周年
- 5月 ・ 【中央】第1回がん市民フォーラムの開催（以降、定期開催）
- 6月 ・ 【中央】産科ホットラインの運用を開始
 - ・ 【西】CT増設、検査体制の充実
- 10月 ・ 【中央】小児科ホットラインの運用を開始
- 11月 ・ 【中央】新港島寮の完成

平成27年

- 1月 ・ 【西】神戸市災害対応病院に指定
 - ・ 【西】電子カルテの導入開始
 - ・ 【共通】職員満足度調査の実施
- 2月 ・ 【西】JICA事業の終了（24～26年度：ベトナム・ダナン市への看護研修サポート）
- 3月 ・ 【中央】がんサロンの開催（以降、定期開催）
- 4月 ・ 【西】地域医療在宅支援室の設置
- 5月 ・ 【西】土曜日リハビリテーションを全日実施開始
- 10月 ・ 【西】手術支援ロボット「ダヴィンチ」を導入
 - ・ 【中央／西】医療事故調査制度の開始に伴う対応
- 11月 ・ 【西】小児科輪番回数を月6～8回に増加
- 12月 ・ 【中央】肺がんチームの結成（免疫チェックポイント阻害剤の保険適用に伴う）

平成28年

- 1月 ・ 【西】乳腺外科の新設
- 4月 ・ 【中央／西】熊本地震において、災害時派遣医療チーム（DMAT）の派遣等の被災地支援
 - ・ 【共通】人事評価制度の実施（医師は試行的実施）
- 5月 ・ 【中央】救命救急センター内に第2救急病棟を開設
- 6月 ・ 【西】NPO法人卒後臨床研修評価機構による評価受審。2年間の施設認定を受ける。
- 8月 ・ 【中央】精神科身体合併症病棟（MPU）8床の開設
 - ・ 【中央】研修棟を増築。研修ホール、トレーニングラボなどを開設
- 9月 ・ 【中央】社会保険労務士によるがん患者の仕事と暮らしの相談会を開始
- 10月 ・ 【中央】病児保育室の運用を開始
- 12月 ・ 【中央】施設改修による患者サービスの向上（患者サポートセンターなど）

平成29年

- 3月 ・ 【西】東館を増築
 - ・ 【中央】他人のiPS細胞を用いた第1例目の移植手術を実施
- 4月 ・ 【西神戸】西神戸医療センターの市民病院機構への移管
 - ・ 【西】院内保育所の開設
- 7月 ・ 【西】地域包括ケア病棟37床を導入
- 11月 ・ 【中央】先端医療センター病院を中央市民病院に統合
 - ・ 【中央】治験管理センターを改組し、臨床研究推進センターを設置
- 12月 ・ 【アイセンター】神戸アイセンター病院が開院
 - ・ 【中央】全国救命救急センター評価において、4年連続で第1位に選ばれる（26～29年）

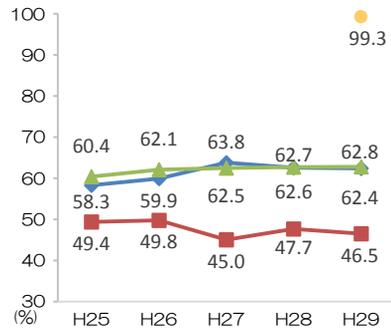
平成30年

- 2月 ・ 【西神戸】PET-CTの運用開始
 - ・ 【共通】第1回4病院合同学術研究フォーラムの開催
- 3月 ・ 【中央】文部科学省認定の研究機関の指定

医療機能等指標・主要経営指標の推移

凡例：中央市民病院は◆ 西市民病院は■ 西神戸医療センターは▲ 神戸アイセンター病院は●で表示

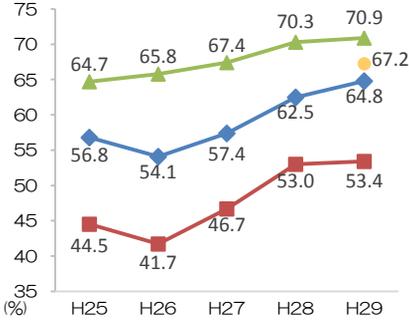
(1) クリニカルパス適用率



<中期計画目標値>

中央市民病院	60.0%以上	達成
西市民病院	50.0%以上	達成
西神戸医療センター	50.0%以上	達成
神戸アイセンター病院	99.0%以上	達成

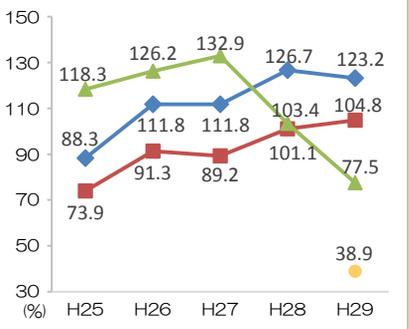
(2) 紹介率



<中期計画目標値>

中央市民病院	55.0%以上	達成
西市民病院	50.0%以上	達成
西神戸医療センター	50.0%以上	達成
神戸アイセンター病院	50.0%以上	達成

(3) 逆紹介率

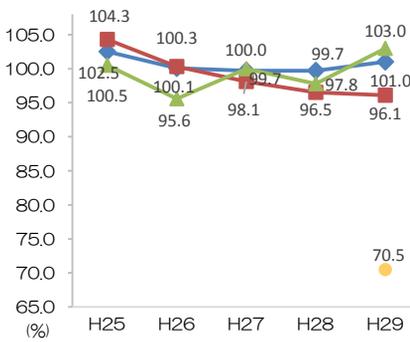


<中期計画目標値>

中央市民病院	90.0%以上	達成
西市民病院	70.0%以上	達成
西神戸医療センター	70.0%以上	達成
神戸アイセンター病院	70.0%以上	達成

※西神戸：平成28年10月より算定方法を変更

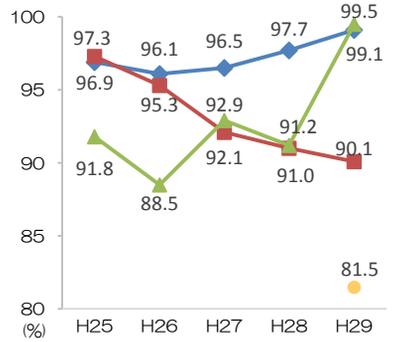
(4) 経常収支比率



<中期計画目標値>

中央市民病院	100.3%	達成
西市民病院	100.1%	達成
西神戸医療センター	100.9%	達成
神戸アイセンター病院	99.2%	達成

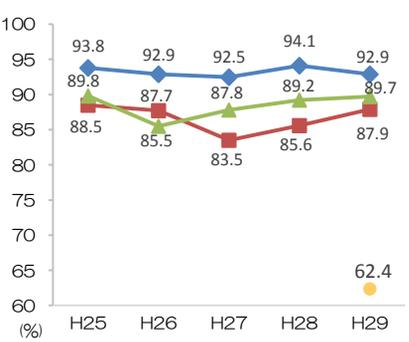
(5) 医業収支比率 ※運営費負担金を除く



<中期計画目標値>

中央市民病院	98.0%	達成
西市民病院	94.9%	達成
西神戸医療センター	97.7%	達成
神戸アイセンター病院	98.5%	達成

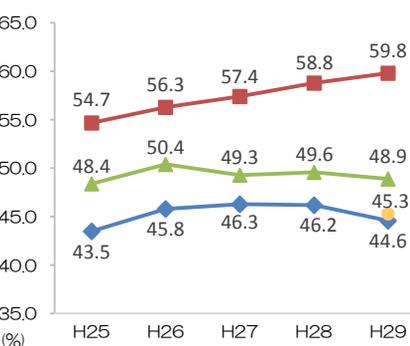
(6) 病床利用率 ※感染症病床、結核病床を除く



<中期計画目標値>

中央市民病院	93.3%	達成
西市民病院	89.5%	達成
西神戸医療センター	89.8%	達成
神戸アイセンター病院	61.5%	達成

(7) 給与費比率

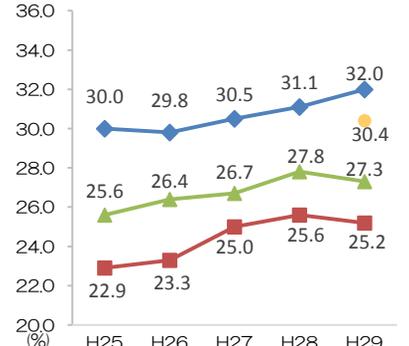


<中期計画目標値>

中央市民病院	45.6%以下	達成
西市民病院	55.8%以下	達成
西神戸医療センター	50.8%以下	達成
神戸アイセンター病院	35.7%以下	達成

※アイセンター：開設準備費用を除く

(8) 材料費比率

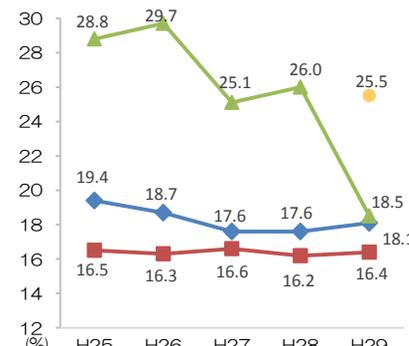


<中期計画目標値>

中央市民病院	31.0%以下	達成
西市民病院	22.9%以下	達成
西神戸医療センター	25.9%以下	達成
神戸アイセンター病院	33.4%以下	達成

※アイセンター：開設準備費用を除く

(9) 経費比率



<中期計画目標値>

中央市民病院	18.7%以下	達成
西市民病院	17.3%以下	達成
西神戸医療センター	20.0%以下	達成
神戸アイセンター病院	17.4%以下	達成

※アイセンター：開設準備費用を除く

神戸市立医療センター 中央市民病院

1. 市民病院としての役割の発揮

(1) 救急医療

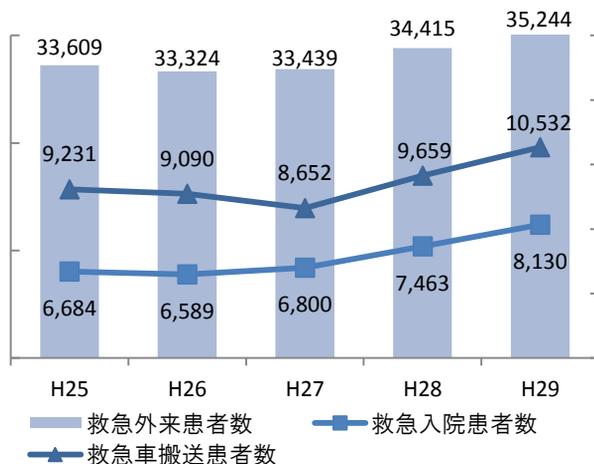
救命救急センターとして、24時間365日体制の救急医療の提供を継続し、断らない救急の徹底に努め、増加する救急患者に対応しました。(グラフ1)

平成29年度には、厚生労働省より発表された「**全国救命救急センター評価***」において、**4年連続で1位**に選ばれました。

◆主な取り組み

- 産科ホットライン、小児科ホットラインの運用開始
- ECMO（体外式膜型人工肺による治療）チームの結成
- 第2救急病棟の開設による受入れ体制の充実
- ドクターカー*による救急搬送患者の受入

グラフ1：救急患者数の推移（人）



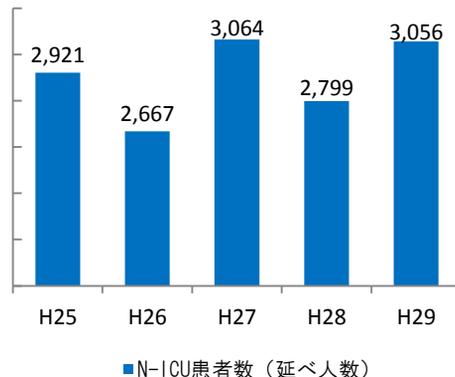
(2) 小児・周産期医療

総合周産期母子医療センター*として、関係診療科と連携を強化し、最新の医療技術を用いて救命に努める等、ハイリスク出産への対応を行いました。(グラフ2)

◆主な取り組み

- 夜間、休日に必ず小児科医を当直待機させる体制の継続
- 週1回の入退院カンファレンス、症例検討会の継続開催
- 県立こども病院との相互補完、連携

グラフ2：N-ICU患者数の推移（人）



(3) 結核・感染症医療、(4)災害医療その他の緊急時における医療

災害拠点病院*として、非常時に対応できるよう災害訓練の実施や災害研修等に積極的に取り組み、28年4月に発生した熊本地震では、**災害時派遣医療チーム(DMAT)**を派遣し、被災地の支援にあたりました。(写真1)

◆主な取り組み

- 熊本地震でのDMAT派遣による被災地支援
- 災害拠点病院としての防災訓練の継続
- 新興感染症に対するマニュアル、受入体制整備
- 市、県及び地域の医療機関と連携を図れる体制の継続



写真1 DMATの活動風景

対策本部のある熊本赤十字病院にて指示を受け、他病院のDMATとも連携しながら、支援を行いました。

<全国救命救急センター評価>

➢ 厚生労働省において、平成11年度から救命救急センター全体のレベルアップを図ることを目的として実施されている。診療体制や患者受入実績等に関する報告に基づき点数化される。

<ドクターカー>

➢ 人工心臓マッサージ器や人工呼吸器、検査装置等の医療機械を搭載し、医師、看護師などが同乗して医療機関搬送前の現場などへ直接出動する救急車的一种。

<総合周産期母子医療センター>

➢ 新生児集中治療管理室(NICU)や母体・胎児集中治療管理室(MFICU)を備え、重い妊娠中毒症や切迫早産等危険性の高い妊婦と新生児に24時間体制で対応可能な医療機関のこと。

<災害拠点病院>

➢ 災害対策基本法に基づいて都道府県知事が指定する病院で、県内や近県で災害が発生し、通常の医療体制では被災者に対する適切な医療を提供することが困難な場合に、都道府県知事の要請により、傷病者の受入れや医療救護班(Disaster Medical Assistance Team = DMAT)の派遣を行う病院のこと。

2. 高度医療及び専門医療の充実並びに医療水準向上への貢献

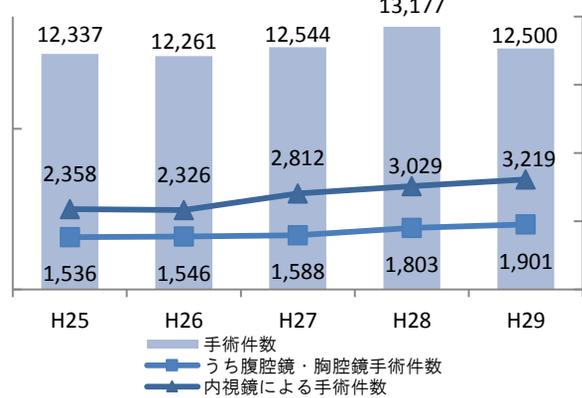
(1) 高度医療及び専門医療の充実

平成25年度末に導入した手術支援ロボット「ダヴィンチ」・TAVI（経カテーテル大動脈弁治療）による高度医療機器を使用した治療を継続。患者に負担の少ない手術に引き続き積極的に取り組みました。（グラフ3）

◆主な取り組み

- ダヴィンチの更なる活用に向けた**ロボット手術センター**の新設
- 腎臓がん、膀胱がん、胃がんのダヴィンチ手術の開始
- 高度医療機器（CT,MRI,PET）による検査の実施

グラフ3：手術件数の推移（件）



(2) 5疾病※への対応, (3) チーム医療の実践及び専門性の発揮

地域がん診療連携拠点病院※P16として、**がん診療の中心的役割**を担い、地域連携パス※を活用しながら地域医療機関との連携を図りました。診療科連携のもと脳卒中センターや心臓センターの一体的運用を行い、患者に最適な医療を提供する体制を一層強化しました。また、平成28年度に**MPU※**を開設し、身体合併症への対応を強化しました。

院内の多職種で構成されるチームにおいて、定期的なミーティングや院内巡回等を実施し、各職種がそれぞれの専門性を発揮したチーム医療を継続して実施しました。

◆主な取り組み

- がん相談体制の強化、オープンカンファレンスや研修会の継続開催（写真2）
- MPU8床の開設
- NST（栄養サポートチーム）や緩和ケアチームなど、13の専門チームによるチーム医療の継続



写真2 がん診療オープンカンファレンス

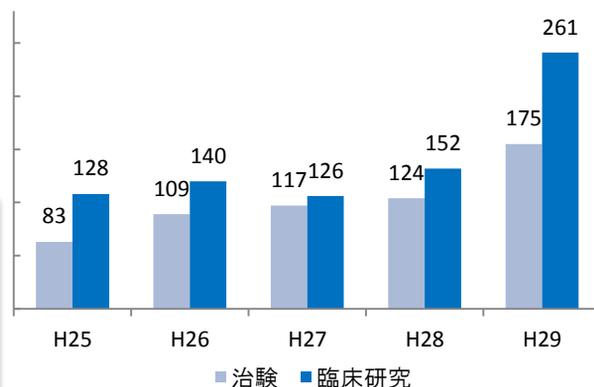
(4) 臨床研究及び治験※の推進

引き続き積極的に臨床研究及び治験の推進に取り組みました。平成29年11月、先端医療センター病院の統合に伴い、治験・臨床試験管理センターを改組し、新たに**臨床研究推進センター**を立ち上げ、これまで以上に安全で安定的な実施体制の確立に取り組みました。（グラフ4）

◆主な取り組み

- 大学等との共同研究による他人のiPS細胞を用いた網膜色素上皮細胞移植手術の実施
- 臨床研究推進センターの設立及び臨床研究体制強化
- 文部科学省認定の研究機関指定**を受ける

グラフ4：臨床研究・治験件数の推移（件）



※H29は先端医療センター病院からの継承件数及びアイセンター病院からの受託審査件数を含む

<5疾病>

- 生活習慣病その他国民の健康の保持を図るために、特に広範かつ継続的な医療の提供が必要と認められる疾病として厚生労働省が定めた、がん・脳卒中・心血管疾患（急性心筋梗塞）・糖尿病・精神疾患のこと。

<地域連携パス>

- 患者が安心して医療を受けることができるよう、治療を受ける全ての医療機関で共有して用いるもの。診療にあたる複数の医療機関が、役割分担を含め、あらかじめ診療内容を患者に提示・説明する。

<臨床研究・治験>

- 臨床研究とは、治療方法の改善や病気の原因の解明、患者の生活の質の向上などのために行う医学研究のこと。治験とは、厚生労働省から医薬品、医療機器、再生医療等製品として承認を受けるために行い、新医薬品等の開発過程において、実際の患者等で有効性及び安全性について調べる治療を兼ねた試験のこと。

<MPU>

- Medical Psychiatry Unit（精神科身体合併症病棟）主に薬物中毒患者、自傷による身体損傷を負った患者、自殺企図患者等、精神疾患とともに身体疾病の治療を行う専門病棟。

3. 安全で質の高い医療を提供する体制の維持

(1) 医療の質を管理することの徹底

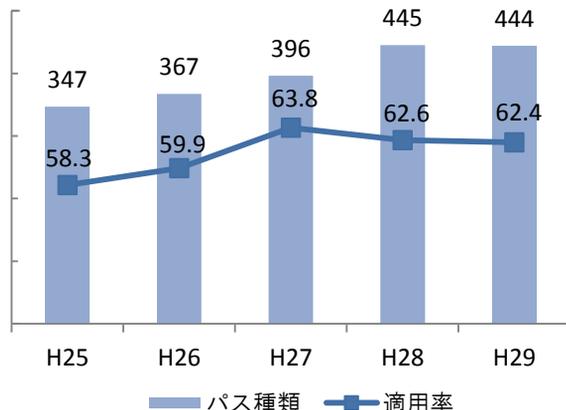
クリニカルパス※委員会において、クリニカルパスから外れた症例の分析を行う等、引き続き医療の質の標準化に取り組まれました。(グラフ5)

電子カルテ等の医療情報システムについては、関係部門においてワーキング会議を実施し、システム更新に向けて準備を進めました。

◆主な取り組み

- ・ 日本クリニカルパス学会や、クリニカルパス大会の実施などの活発な活動
- ・ 診療報酬改定前後における比較分析及びDPCを用いたクリニカルパス分析

グラフ5：クリニカルパス数(件)・適用率(%)



(2) 医療安全対策及び医療関連感染対策の強化

院内研修会の積極的な開催や、医療安全のつどいを開催するなど啓発活動に取り組まれました。また、感染管理チームによる巡回など各種サーベイランス(監視)ラウンドを行い、アウトブレイク※等の早期発見に取り組まれました。

加えて、**院内でRRS※を導入・展開**し、院内CPA(心肺停止)発生件数を減少させるなど安全管理への取り組みを進めまし

◆主な取り組み

- ・ 医療安全・感染対策について、医療安全のつどいの開催や院内研修会の積極的な開催(写真3)
- ・ RRSを院内全体に展開・起動による全医療職への安全管理への取り組み(グラフ6)
- ・ 医療事故調査制度について、院内指針の整備や講演会の実施等、職員への情報提供や、報告システムの構築

グラフ6：RRS起動件数と院内CPA※件数の推移

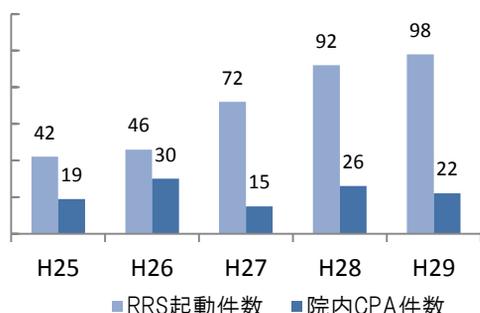


写真3 医療安全の集い

(3) 法令及び行動規範の遵守(コンプライアンス)の徹底【共通】

中央市民病院薬剤部門システム開発に係る収賄事件を受け、平成26年度に**コンプライアンス推進本部を設置**し、全職員がコンプライアンスの重要性について認識・実践するための対応を行いました。また、監事監査及び会計監査人監査の継続的に実施し、**自主監査体制も強化**しました。

◆主な取り組み

- ・ コンプライアンス推進本部の設置。外部講師、各所属におけるコンプライアンス研修の実施
- ・ **標的型攻撃メールについての訓練**実施や、情報セキュリティ研修受講の徹底(図1)
- ・ 自主監査体制の強化

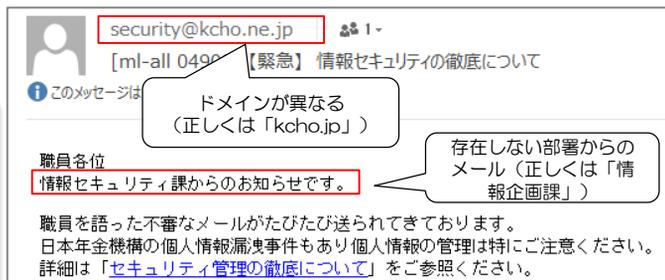


図1 情報セキュリティ訓練メール

<クリニカルパス>

- 病気に対する、検査・処置・食事・服薬等、患者が受ける治療や看護ケア等の標準的なスケジュールを、疾患や治療法ごとに時系列に沿って一覧にまとめた計画書のこと。

<アウトブレイク>

- 一定期間内に同一病棟や同一医療機関といった一定の場所で発生した院内感染の集積が通常よりも高い状態のこと。

<RRS>

- Rapid Response System・院内救急対応システムのこと。重症化する前に兆候を発見し、介入することで予後を改善するシステム。

4. 市民及び患者とともに築くやさしい病院

(1) 患者のニーズに応じたサービスの提供

患者満足度調査の実施や意見箱の設置により、来院者からの要望や意見等の把握に取り組み、適宜改善を行いました。

また、様々な相談や希望に応じ、かかりつけ医の案内等を行う患者サポートセンターや、入院前準備センターの運営を継続し、患者サービスの向上に努めました。(グラフ7)

(2) 市民及び患者へ開かれた病院

患者向け広報紙「しおかぜ通信」の発行や各種教室の実施、**ホームページのリニューアル**など、患者や市民に分かりやすい情報の提供に努めました。(写真4)

また、**患者サポートセンターの拡張**をはじめ、がん市民フォーラム等の開催、暮らしの相談に取り組み等、がん患者支援体制も強化しました。

◆主な取り組み

- ・ 入院前準備センターの移設、患者サポートセンターの拡張
- ・ **がん相談支援センターのリニューアル**
- ・ がん市民フォーラム等の開催、社労士による相談会等がん患者の就労支援
- ・ 栄養管理士によるコンビニエンスストアの弁当、パン等の監修

グラフ7：患者満足度調査結果の推移(%)

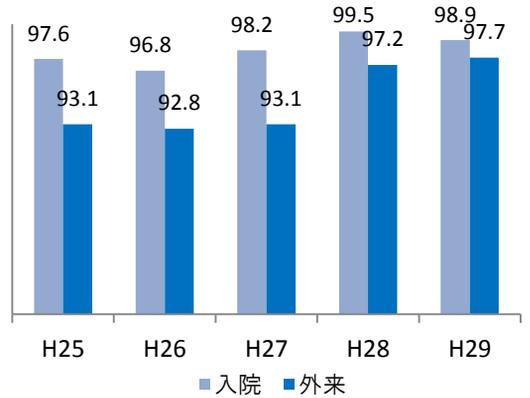


写真4 リニューアルしたホームページ

5. 地域医療連携の推進

(1) 地域医療機関との更なる連携

各診療科の医師等による地域医療機関への訪問を積極的に行うとともに、オープンカンファレンスや地域連携懇話会を開催するなど、地域医療機関との連携に取り組み、**紹介率、逆紹介率ともに向上**しました。(写真5)

また、かかりつけ医を持つことについて、市とも協力しながら患者や市民に広く周知を行い、医療機関の役割に応じた患者の紹介・逆紹介の推進に取り組みました。



写真5 地域連携懇話会の様子

(2) 在宅医療への支援及び在宅医療との連携の強化

在宅介護支援事業所や訪問看護ステーションとの連携しながら、交流セミナーや**退院前カンファレンスを積極的に実施**し、地域の在宅医療・看護の担い手との連携強化に取り組みました。

◆主な取り組み

- ・ かかりつけ医相談窓口、患者相談窓口の設置
- ・ 各区のネットワーク会議や在宅医療推進協議会への積極的な参加
- ・ 退院前カンファレンスの積極的開催

先端医療センター病院の統合について

平成29年11月1日に先端医療センター病院が中央市民病院へ統合しました。

先端医療センター病院の医療機能を継承し、増床した60床を含む768床を一体的・効率的に運用することにより、**救急医療の充実**など中央市民病院の機能強化を行いました。また、臨床研究・治験も継承し、**より質の高い最先端・国際水準の臨床研究**を推進しました。



先端医療センター

神戸市立医療センター 西市民病院

1. 市民病院としての役割の発揮

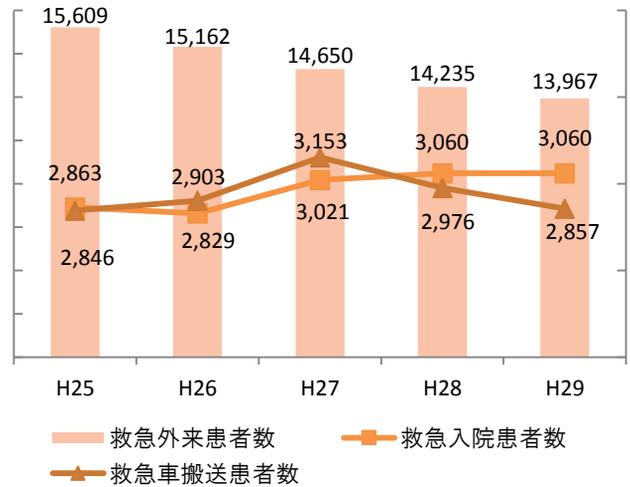
(1) 救急医療

市街地西部(兵庫区、長田区、須磨区)の中核病院として、平成25年9月から全面再開した24時間365日の救急医療の提供を着実に継続しました。救急車の受入れ促進について、院内の会議や通知文書等を通して医師全員に周知し、方針徹底を図りました。(グラフ8)

◆主な取り組み

- ・ 時間内救急患者受け入れの運用見直し
- ・ 受入れられなかった救急車搬送患者の理由分析及び改善策の検討

グラフ8：救急患者数の推移(人)



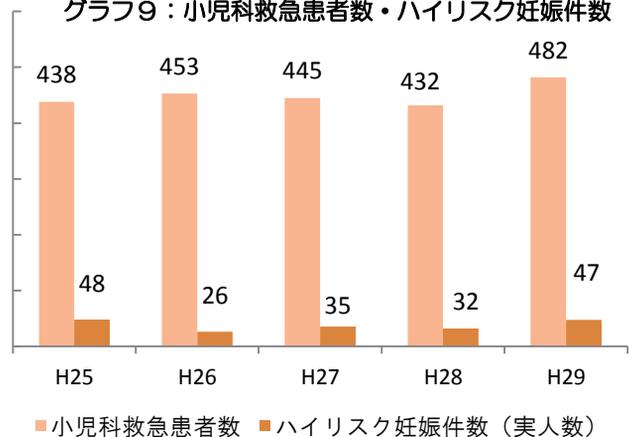
(2) 小児・周産期医療

周産期センターを中心として、引き続き周産期医療を安定的に提供し、リスクの高い分娩にも対応しました。(グラフ9) また、平成27年11月より二次救急輪番の担当回数を増やし、**地域の小児救急医療に貢献**しました。

◆主な取り組み

- ・ 小児二次救急輪番(月6~8回)の継続実施
- ・ アレルギー外来や小児循環器外来等の専門外来の継続
- ・ 小児科病棟の一部個室化による感染症対応の充実

グラフ9：小児科救急患者数・ハイリスク妊娠件数



(3) 結核・感染症医療、(4) 災害医療その他の緊急時における医療

平成27年1月に指定を受けた神戸市災害対応病院*として、地域の関係団体との連携を強化しました。

感染症医療については、新興感染症拡大の際には中央市民病院を中心として、県や市とも連携を取れる体制を継続しました。

◆主な取り組み

- ・ 熊本地震における薬剤師及び災害支援看護師の派遣(写真6)
- ・ 院内の災害対策マニュアルの整備
- ・ 災害対策チームを中心とした各種訓練や研修会の実施



医療ブース

薬剤師のミーティング風景

多職種で連携し被災者支援を行うとともに、ボランティア活動者に対しての支援や感染予防等の指導も行いました。



写真6 災害派遣の様子(熊本地震)

<神戸市災害対応病院>

- 災害時に被災患者の受入・治療や救護班の派遣等を行う災害拠点病院(兵庫県が指定)に準じ、市が設置する救護所への備蓄医薬品や衛生資材等の提供、避難所・福祉避難所への医療提供などの役割を担う病院のこと

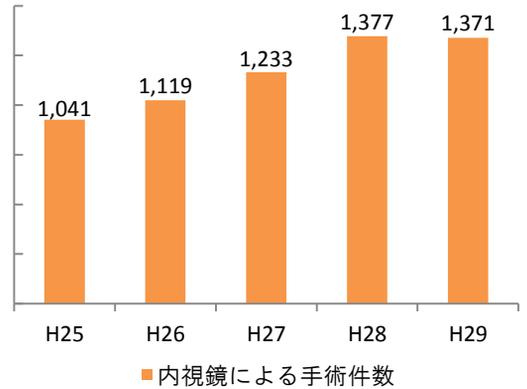
2. 高度医療及び専門医療の充実並びに医療水準向上への貢献

(1) 高度医療及び専門医療の充実並びに医療需要に応じた医療の提供

平成27年10月に手術支援ロボット「ダヴィンチ※」を導入し、より安全で負担の少ない治療に取り組みました。

また、平成29年度に内視鏡センターを拡張し、**内視鏡検査の充実**に取り組みるとともに、**地域包括ケア病棟※の導入**を行い、入院患者の在宅復帰支援・調整を強化しました。(グラフ10)

グラフ10：内視鏡による手術件数(件)



◆主な取り組み

- ・ 腹腔鏡手術等で使用する内視鏡システムの更新
- ・ CT増設による検査体制の充実、大腸検査の開始
- ・ 乳腺外科の新設

(2) 5疾病への対応

がん診療連携拠点病院に準じる病院として、がん治療への充実に取り組みました。

また、糖尿病教室の継続開催及び認知症鑑別診断※を引き続き実施するとともに、**認知症専門医師の招聘**を進める等、取り組みを更に強化しました。



写真7 手術支援ロボット「ダヴィンチ」

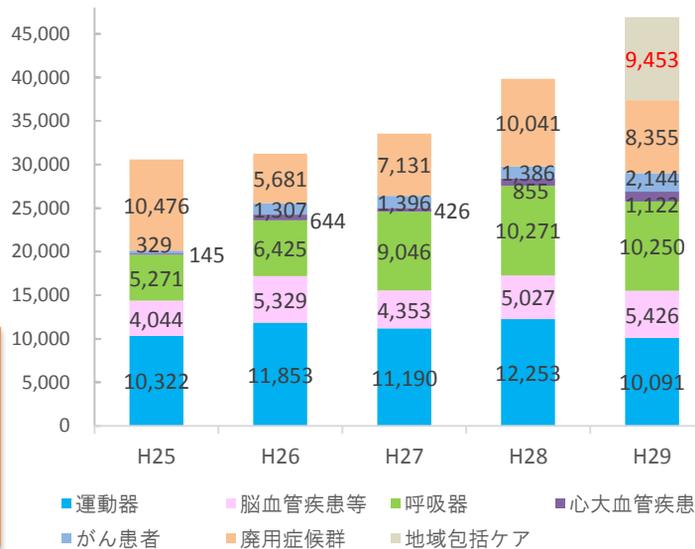
◆主な取り組み

- ・ ダヴィンチを活用した前立腺がん手術、胃がん手術(写真7)
- ・ 糖尿病教室の継続開催及び認知症鑑別診断の継続実施
- ・ Kobe DM net※における地域との連携

(3) チーム医療の実践及び専門性の発揮

院内の多職種で構成されるチームにおいて、定期的にミーティングや勉強会等を実施するなど、各職種がそれぞれの専門性を発揮し、より良い医療の提供を行いました。また、平成29年度は地域包括ケア病棟の開設にあわせ、入院患者に対して在宅復帰を目指したリハビリ実施体制を強化し、**リハビリ実績が増加**しました。(グラフ11)

グラフ11：リハビリテーション実施件数(件)



◆主な取り組み

- ・ リハビリテーション技術部の新設
- ・ 土曜日のリハビリテーションの全日実施
- ・ 全病棟に薬剤師を常駐し、全ての患者の持参薬確認等実施による、看護師の負担軽減、医療安全の向上
- ・ 地域包括ケア病棟導入に合わせたリハビリ体制強化

<ダヴィンチの特徴>

- 内視鏡下の画像の3次元化及びズーム機能により、視野が拡大される。コンピュータによる手振れの補正により従来の開腹手術に比べ、手術に伴う切開や出血の抑制が期待できる。

<地域包括ケア病棟>

- 急性期治療を経過した患者及び在宅において療養を行っている患者等の受け入れ並びに患者の在宅復帰支援等を行う機能を有し、地域包括ケアシステムを支える役割を担う病棟のこと。平成26年度診療報酬改定において新設された。

<認知症鑑別診断>

- CT, MRI, 脳血流検査等の画像検査, 記憶・知能等に関する心理検査, 認知症によく似た症状を表す他の疾患でないかを確認する検査等を行い, 認知症の種類や状態を正確に把握すること。認知症の種類によっては, 薬で進行を遅らせることも可能であり, 早期診断・治療が重要とされている。

<Kobe DM net>

- 神戸糖尿病地域連携パス。平成25年4月から運用を開始。「より多くの糖尿病患者さんに元気で長生きしていただくこと」をスローガンに、病院と診療所が協力して患者の治療にあたる。

3. 安全で質の高い医療を提供する体制の維持

(1) 医療の質を管理することの徹底

平成26年度に電子カルテを導入し、運用を開始しました。

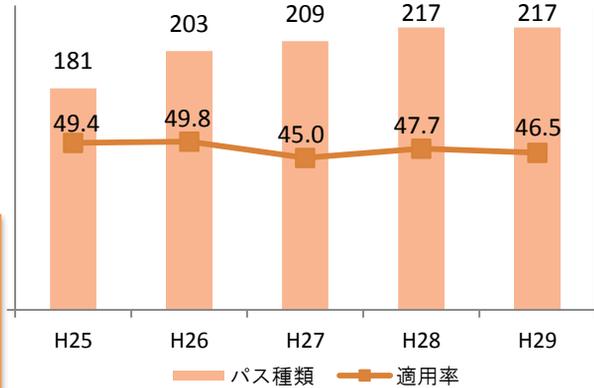
また、クリニカルパス委員会を継続開催し、パスの適用が可能と思われる症例について各診療科に提示し、新規パスの作成を提案する等、適用率向上に向けた取り組みを行いました。

（グラフ12）

◆主な取り組み

- 電子カルテの導入およびDPC*入院期間を把握できるシステムへの改善
- NPO法人卒後臨床研修評価*機構による評価を受診、施設認定
- 中央市民病院との電子カルテの相互閲覧運用の開始

グラフ12：クリニカルパス件数及び適用率



(2) 医療安全対策及び医療関連感染対策の強化

院内で発生したインシデント*やアクシデントについて話し合う医療安全管理室会議を週1回開催し、原因の調査や再発防止に向けた検討を行いました。

また、医療安全研修や院内巡回にも積極的に取り組みました。（写真8）

◆主な取り組み

- 感染管理チームによる院内の巡回、環境整備の強化
- インシデント報告必要性の医師への周知徹底
- 入院前おくすり確認外来の開始



写真8 医療安全研修・院内巡回の様子

4. 市民及び患者と共に築くやさしい病院

(1) 患者のニーズに応じたサービスの提供

患者満足度調査の実施や意見箱の設置により、来院者からの要望や意見等の把握に取り組み、サービス向上に努めました。（グラフ13）

また、通訳者が診察や検査に同行する医療通訳制度の利用を推進。新たにタブレット端末を用いた遠隔医療通訳システムを試験的に導入するなど、外国人患者が安心して受診できる体制を継続しました。

◆主な取り組み

- 診察時間枠の柔軟な設定や検査開始時間の繰り上げ等、混雑緩和や待ち時間短縮の取り組み
- 院内コンサートや夏祭りの開催（写真9）
- 医療通訳制度の継続実施とベトナム語の医療通訳実績の増加に対応するため、遠隔医療通訳制度の試験的導入

グラフ13：患者満足度調査（非常に良い、良いの割合）

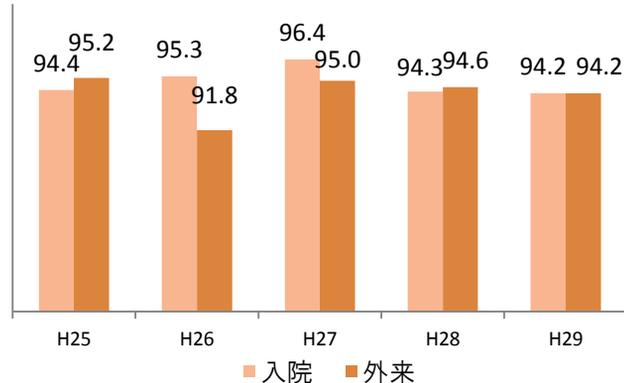


写真9 院内コンサート・夏祭りの様子

<DPC (Diagnosis Procedure Combination) >

- 診断群分類別包括評価。従来の診療行為ごとに料金を計算する「出来高払い」診療報酬請求方式とは異なり、入院患者の医療資源を最も投入した病気とその病状・治療行為をもとに厚生労働省が定めた1日当たりの金額からなる包括評価部分（投薬、注射、処置、入院料等）と出来高評価部分（手術、麻酔、リハビリ、指導料等）を組み合わせる請求方式のこと

<卒後臨床研修評価>

- NPO法人卒後臨床研修評価機構が行う病院の医師臨床研修制度に対する評価事業。臨床研修病院の研修プログラムについて、訪問調査を通して、教育的評価を行い、その結果を病院長はじめプログラム責任者、指導医、指導者、研修医、その他職員に直接的にフィードバック（形成的評価）を行うもの

<インシデント>

- 医療の過程において発生した、患者に被害を及ぼすことはなかったが、注意を喚起すべき事例。

(2) 市民及び患者へ開かれた病院

広報誌「虹のはし」の発行回数を増やし、診療情報や医療スタッフの役割、新しい取り組みについて情報提供を行いました。平成29年度にはホームページのリニューアルもを行い、新しい情報の追加や更新を行いました。(写真10)

また、患者家族や市民も対象とした患者向け教室も継続して開催しました。

◆主な取り組み

- ・ 広報誌「虹のはし」の発行回数増加
- ・ ホームページのリニューアル対応
- ・ 患者家族や市民も対象とした患者向け教室の開催



ホームページリニューアルに合わせて、スマートフォン向けHPにも対応しました



写真10 西市民病院ホームページ

5. 地域医療連携の推進

(1) 地域医療機関との更なる連携

地域医療機関等との役割を明確にするため、院内での相談窓口やポスター掲示、啓発印刷物の配布等により、かかりつけ医を持つことについて患者や地域住民への啓発を行いました。

また、各診療科長による地域医療機関への積極的な訪問や、FAX予約の円滑な運用等、患者の紹介・逆紹介の推進に取り組み、紹介率及び逆紹介率がともに上昇し、地域医療支援病院*としての役割を果たしました。(グラフ14)

◆主な取り組み

- ・ かかりつけ医相談窓口の設置などの啓発
- ・ 土曜日のFAX予約受付の開始
- ・ 各診療科長等による地域医療機関への積極的な訪問
- ・ 地域連携のつどいの開催による地域医療機関との交流

グラフ14：紹介率・逆紹介率の推移

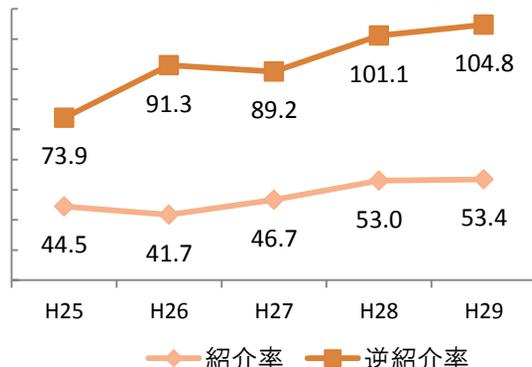


写真11 3区ケアマネジャー交流会の様子

(2) 在宅医療への支援及び在宅医療との連携の強化

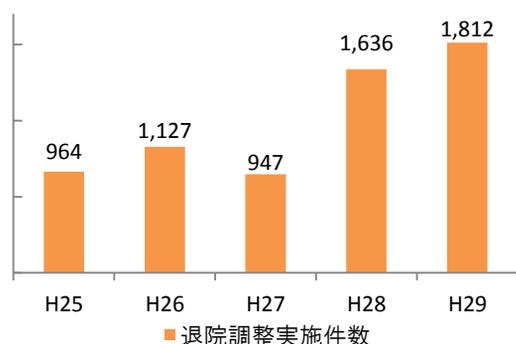
平成27年度より地域医療在宅支援室を設置し、体制を強化しました。また、訪問看護師やケアマネジャー等との意見交換会を継続して開催しました。(写真11)

医療と介護の連携を深めるとともに、専門・認定看護師*や各医療チームによる研修会を行うなど、地域の関係機関との顔の見える連携に引き続き取り組みました。

◆主な取り組み

- ・ 地域医療在宅支援室の設置、体制強化
- ・ 訪問看護ステーションやケアマネジャーへの研修会、訪問看護師との交流会の開催
- ・ 地域連携先の多職種に向けた退院前カンファレンスの実施

グラフ15：退院調整実施件数(件)



<地域医療支援病院>

- 医療機関相互の適切な機能分担及びかかりつけ医の支援を通じて、地域医療の確保を図る医療機関として都道府県知事から承認を受けた病院のこと。紹介率・逆紹介率、施設設備等の承認要件を満たす必要がある。

<専門看護師>

- 専門看護師は、公益社団法人日本看護協会の専門看護師認定審査に合格し、特定の専門分野において、卓越した看護実践能力を有することを認められた看護師のこと。

<認定看護師>

- 認定看護師は、公益社団法人日本看護協会の認定看護師認定審査に合格し、特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を有することを認められた看護師のこと。

神戸市立西神戸医療センター

1. 市民病院としての役割の発揮

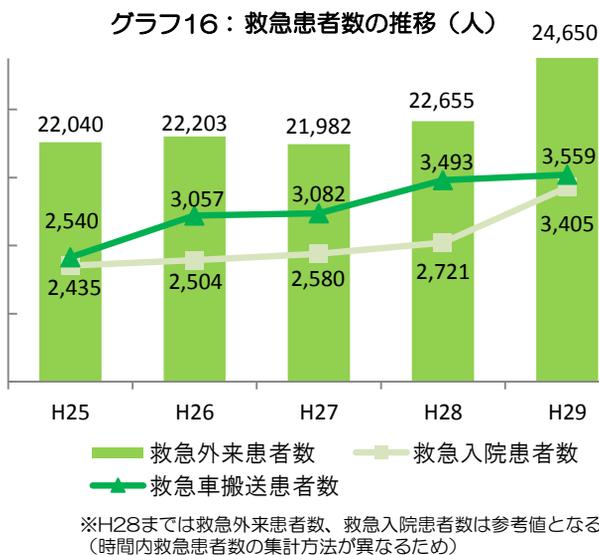
(1) 救急医療

神戸西地域（西区、垂水区、須磨区）の中核病院として、24時間365日の救急医療の提供を着実に継続しました。（グラフ16）

受け入れられなかった救急車搬送患者についての原因分析を行い、幹部会議で報告する等「断らない救急」の方針徹底を図りました。

◆29年度の主な取り組み

- ・ 院長ヒアリングにおいて各診療科長に対して救急患者の受け入れ促進を指示
- ・ 冠動脈造影検査や血管内治療の積極的な実施
- ・ 市消防との意見交換会の継続



(2) 小児・周産期医療

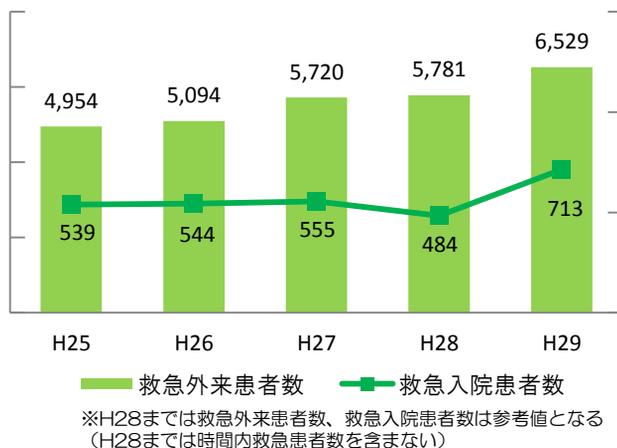
準夜帯の小児救急外来を継続するとともに、小児救急輪番に参加し、神戸こども初期急病センターの受け皿となる等、小児医療を安定的に提供しました。（グラフ17）

また、神戸西地域の中核病院として、**地域医療機関での受け入れ困難なハイリスクな出産の受け入れ**をはじめ、安定的な周産期医療を提供しました。

◆29年度の主な取り組み

- ・ 準夜帯（17時～24時）の小児救急外来の継続
- ・ 小児科の二次救急輪番の担当を継続
- ・ 合併症妊娠、切迫早産等リスクの高い妊娠への対応の充実

グラフ17：小児（15歳以下）患者数の推移（人）



(3) 結核・感染症医療、(4)災害医療その他の緊急時における医療

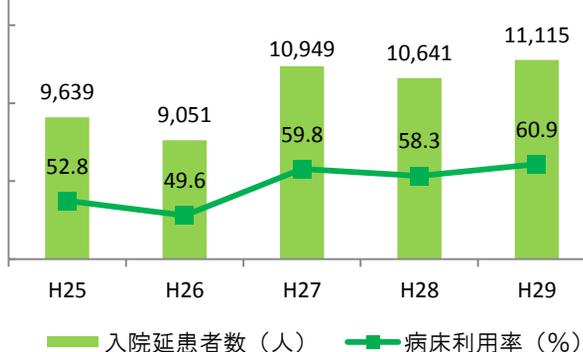
市内唯一の結核病床を有する病院として、結核患者の専用病棟、結核患者にも対応できる手術室などの設備を活用し、引き続き総合的な**結核医療を安定的に提供**しました。（グラフ18）

また、神戸市災害対応病院として、必要な医薬品や衛生資材などの備蓄の継続及び買い替えを行うとともに、非常時食料品の一元管理に取り組みました。

◆29年度の主な取り組み

- ・ 感染管理認定看護師の専従配置
- ・ 感染防止対策室を中心とした感染防止の取り組み及び新興感染症対策

グラフ18：結核に関する指標の推移



2. 高度医療及び専門医療の充実並びに医療水準向上への貢献

(1) 高度医療及び専門医療の充実並びに医療需要に応じた医療の提供

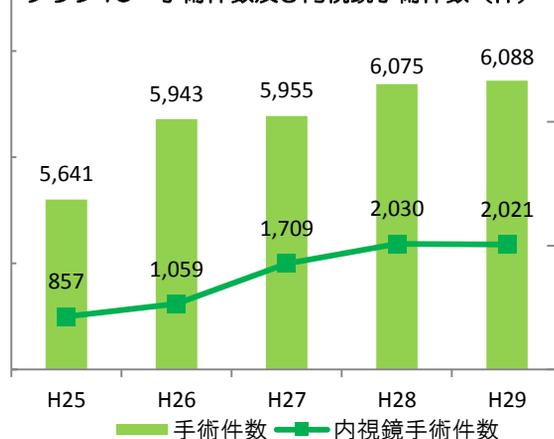
地域医療機関では提供できない、がん関連の専門外来や化学療法を提供する他、高度医療機器によるカテーテル検査・治療や内視鏡治療による低侵襲な高度医療を継続して提供しました。（グラフ19）

また、手術支援ロボット「ダヴィンチ」の臨床使用においては、腎がんへの適応も継続した。

◆29年度の主な取り組み

- ・ 手術支援ロボット（ダヴィンチ）手術をはじめとする高度かつ患者に負担の少ない手術の継続実施
- ・ 拡張した内視鏡センターの活用による検査・治療の充実
- ・ PET-CTの稼働に向けた調整

グラフ19：手術件数及び内視鏡手術件数（件）



(2) 5疾病への対応

地域医療機関と連携を図りながら、地域で求められている役割を果たしました。特に、がん治療については、国指定の「地域がん診療連携拠点病院※」として、がん診療の中心的役割を担いました。更なるがん診断機能の向上を図るため、平成30年2月にPET-CTを導入しました。（写真12）

◆29年度の主な取り組み

- ・ ホットラインの運用による急性心筋梗塞、脳卒中患者のスムーズな受入の継続
- ・ 精神科リエゾンチームや認知症サポートチームによる積極的な支援



写真12 PET-CT

(3) チーム医療の実践及び専門性の発揮

複数の診療科医師、看護師、コメディカルで構成される各チームによるコミュニケーションを図り、事例検討等の勉強会や情報交換を行い、患者へのより良い治療・ケアに繋がるように努めました。

◆29年度の主な取り組み

- ・ 「新・チーム医療勉強会」の開催によるチーム医療の推進（写真13）
- ・ 排尿ケアチームの設置
- ・ 入院前オリエンテーションの拡大実施
- ・ 乳がん患者や透析中の患者に対するリハビリテーションの開始



写真13 「新・チーム医療勉強会」の様子

<地域がん診療連携拠点病院>

- 全国どこでも質の高いがん診療が受けられるよう、がん診療の均てん化（地域間の診療レベルの格差を無くし、質の高いがん医療を提供すること）のために、地域におけるがん診療連携を推進する中核となる病院。厚生労働省が都道府県からの推薦を受け、整備指針に基づき指定するもの。

(4) 臨床研究及び治験の推進

治験及び臨床研究を継続して推進したほか、病院ホームページで実施中の治験について適宜掲載し広報を行いました。また、院内に**学術研修部を新設**し、中央市民病院・学術支援センターとの連携を図る等、職員の資質向上の支援に取り組みました。

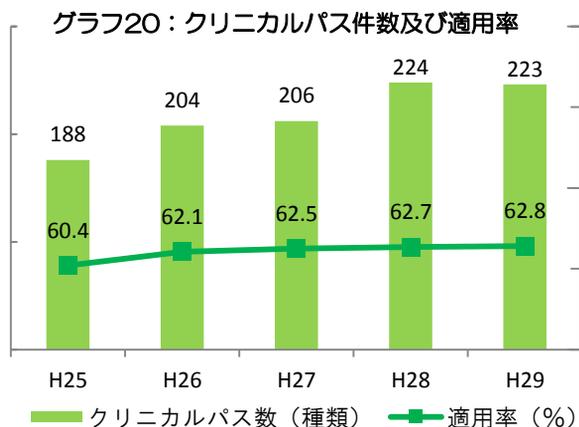
3. 安全で質の高い医療を提供する体制の維持

(1) 医療の質を管理することの徹底

クリニカルパス小委員会を定期的開催し、現状の把握とパス適用率向上に向けた今後の進め方について検討しました。使用されていないパスの利用促進や、DPCデータを用いた提案を行うなど、医療の質の標準化に努めました。（グラフ20）

◆29年度の主な取り組み

- ・ 院長ヒアリングにおける、診療科ごとのDPC分析と改善提案
- ・ 医療情報システム（ハード部分）更新に向けた計画策定準備



(2) 医療安全対策及び医療関連感染対策の強化

医師及び看護師等からなる医療安全管理室を中心に、医療安全に関する情報の収集及び分析を行い、**医療安全対策の徹底**を図りました。また、感染防止対策室を中心に定期的なラウンドを行うことで、院内感染防止対策の啓発に取り組みました。（写真14,15）

実際のインシデント等への対策として、注意喚起文やレターを適宜発行するとともに、関連事項について研修内容に盛り込む等、職員への啓発に努めました。

◆29年度の主な取り組み

- ・ 全職員を対象とした医療安全・感染対策研修の実施
- ・ 医療安全集中管理ソフトの活用による迅速な情報収集
- ・ 感染防止対策チームの定期的なラウンドによる感染防止や新興感染症対策への啓発活動



写真14 「各部署の安全取り組みポスター」の様子



写真15 「感染防止対策チーム現場ラウンド」の様子

4. 市民及び患者と共に築くやさしい病院

(1) 患者のニーズに応じたサービスの提供

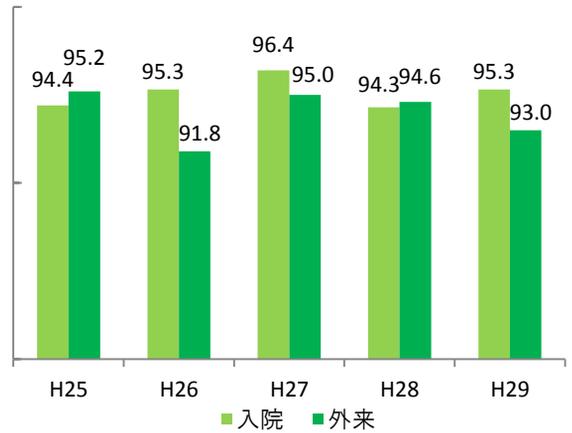
患者満足度調査の実施や提案箱の設置により、患者ニーズを把握し、サービス向上に努めました。（グラフ21）

平日の来院患者がピークとなる時間帯には、総合案内への職員配置のほか、外来各フロアにフロアマネジャーを配置し、どの診療科を受診して良いかわからない患者さんへのご案内など来院患者への対応を行いました。

◆29年度の主な取り組み

- ・ 総合案内機能による来院患者への対応
- ・ 神戸市混声合唱団を招いた院内コンサートの開催
- ・ 入院食事アンケート結果を踏まえた化学療法食の実施

グラフ21：患者満足度調査（非常に良い、良いの割合）（%）



(2) 市民及び患者へ開かれた病院(市民への情報発信)

国立がん研究センター認定がん相談支援センターの認定を受け、**更なるがん相談支援体制の充実**を図りました。（写真16）

また、院内コンサートの実施や、広報誌「そよかぜ」を定期的に発行し、診療情報や新しい取り組みについて情報提供を行いました。（写真17）

◆29年度の主な取り組み

- ・ がん相談窓口の設備充実と電話によるがん相談の開始
- ・ がん市民フォーラムの開催（中央市民病院との共催）
- ・ ホームページのリニューアル



写真16 がん患者ライブラリー



写真17 「患者向け院内コンサート」の様子

5. 地域医療連携の推進

(1) 地域医療機関との更なる連携

開院当初より開催している医師会や歯科医師会と組織する神戸西地域連携システム連絡協議会や地域医師会との合同カンファレンスを継続しました。（写真18）

◆29年度の主な取り組み

- ・ 地域医療室長に副院長を配し、副室長を増員する等の体制強化
- ・ **土曜日のFAX予約の開始**
- ・ 循環器ホットラインの対応時間を延長し、地域医療機関の夜間診察時間帯にも対応できる体制の継続



写真18 「神戸西地域合同カンファレンス」の様子

(2) 在宅医療への支援及び在宅医療との連携の強化

地域の在宅診療医や居宅支援事業所、訪問看護ステーションや、西区に新たに開設された医療介護サポートセンターとの切れ目のない連携に取り組み、在宅医療の円滑化と普及に努めました。

神戸市立 神戸アイセンター病院

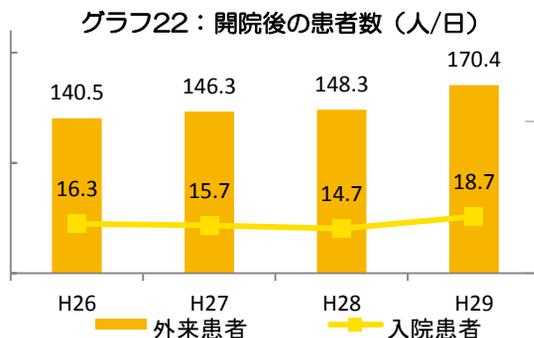
6. 神戸アイセンター病院としての役割

(1) 高度医療及び専門医療等の充実並びに臨床研究及び治験の推進

中央市民病院及び先端医療センター病院の眼科機能を集約・拡充し、平成29年12月1日に開院しました。（写真19）

眼科標準医療及び高度専門医療の提供を継続するとともに、新たな高度医療機器を導入し、より安全で精度の高い最先端の手術等に取り組みました。（グラフ22,表1）

臨床研究・治験では、諸規程を整備し、審査業務の準備を行いました。医療安全では、管理会議でインシデント報告内容、件数等の確認・検証を実施しました。また、中央市民病院との連携体制を整備しました。



※ H28までは中央市民病院眼科の患者数実績（参考）
※ H29は12～3月の実績

◆29年度の主な取り組み

- ・ 県下病院で初となる白内障手術機器フェムトセカンドレーザー※をはじめとした高度医療機器を導入し、標準医療から高度医療まで実施
- ・ 中央市民病院と連携して、全身疾患患者への対応や眼科救急等実施
- ・ 開院前にICLS研修※、RRS研修、BLS※研修の受講
- ・ 視覚障害者誘導研修、医療安全研修会を実施

項目	H29 12月	H30 1月	2月	3月	平均	
入院	延べ患者数(人/日)	15.4	15.0	21.5	23.2	18.7
	新入院患者数(人/日)	3.9	4.5	5.4	5.0	4.7
	病床利用率(%)	51.3	50.1	71.8	77.3	62.4
外来	延べ患者数(人/日)	161.0	174.0	170.3	176.2	170.4
	初診患者数(人/日)	21.4	18.9	17.3	18.9	19.1
	平均在院日数(日)	4.0	3.6	4.0	4.5	4.0

表1 アイセンター病院開院後4か月の実績

(2) 市民及び患者とともに築くやさしい病院並びに地域連携の推進

開院にあたり、ホームページやポスター掲示など積極的な広報を行いました。施設面ではバリアフリー・ユニバーサルデザインを意識し、来院者の目線に配慮した施設配置や表示を行いました。（写真20）

意見箱の設置や退院時アンケートにより、来院者からの要望や意見の把握に取り組み、改善を図りました。

公益社団法人NEXT VISIONが運営するロービジョンケア※施設と緊密に連携し、患者を生活相談などにつなぐ連携カードの運用などを行うことで、社会生活や復帰を支援するワンストップセンターとしての取り組みを実施しました。（写真21）



写真19 開設記念式典の様子

◆29年度の主な取り組み

- ・ 開設記念式典及び内覧会の実施
- ・ 来院者の目線に配慮した施設配置やスムーズな動線、分かりやすい表示の導入
- ・ 意見箱の設置、退院時アンケートの実施。ご意見への回答集の設置による取り組み状況の周知
- ・ ロービジョンケアが必要な患者の紹介、生活相談や拡大鏡等補助具の紹介支援



写真20 眼科患者にわかりやすい表示



写真21 ロービジョンケア施設（ビジョンパーク）

<フェムトセカンドレーザー>

フェムトセカンドとは、1000兆分の1秒のこと。フェムトセカンドにまで短縮した非常に強い強度のレーザーを眼科領域の手術に使用することにより、メスを使わず、ミクロン単位の精度の手術が可能。

<ICLS研修>

Immediate Cardiac Life Support・蘇生トレーニングコースのこと。緊急性の高い病態のうち、特に突然の心停止に対する最初の10分間の対応と適切なチーム蘇生を習得することを目標とし、実技実践を中心としたトレーニングを行う。

<BLS>

Basic Life Support・一次救命処置のこと。急に倒れたり、窒息を起こした人に対して、その場に居合わせた人が、救急隊や医師に引継ぐまでの間に行う応急手当のこと。

<ロービジョンケア>

視覚に障害があるため生活に何らかの支障を来している人に対する医療的、福祉等すべての支援のこと。

優秀な職員の確保と人材育成

1. 優れた専門職の確保と人材育成

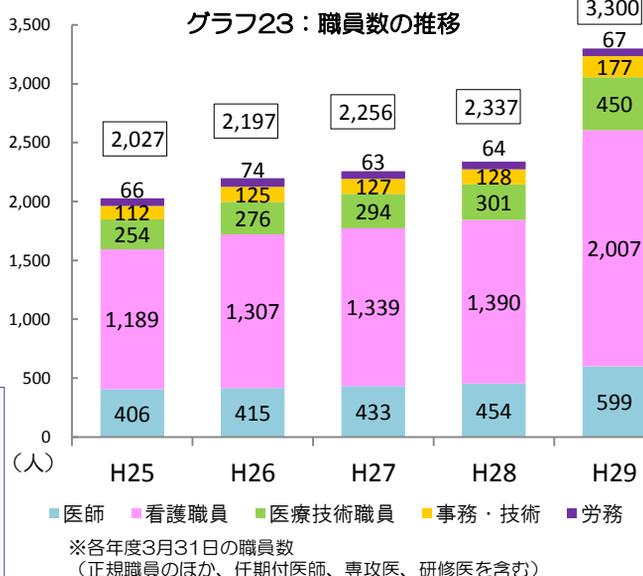
(1) 優れた専門職の確保と人材育成

平成29年度から、法人本部経営企画室に看護業務担当部長を配置し、**看護師確保等について体制を強化**するなど、安定的に優れた人材確保に努めました。

また、先端医療センター病院との統合に合わせて、**CRC***を採用するなど、**専門的な知識や経験を有する職員の確保**に取り組みました。(グラフ23)

◆主な取り組み

- ・ 合同就職説明会の参加や積極的な学校訪問の継続(写真22)
- ・ レジデント制度*の活用による医療技術者の養成と確保
- ・ 神戸市看護大学との連携強化による看護師確保
- ・ 先端医療センター病院との統合に向けた専門職の確保



(2) 職員の能力向上等への取り組み

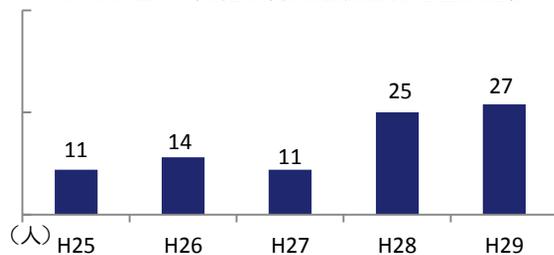
市民病院職員としての使命感を持ち、高い専門性と協調性、豊かな人間性及びホスピタリティの心を兼ね備えた職員を育成するため、**資格取得の支援及び促進**、研修制度の充実を図りました。(グラフ24)

すべての職員が必要な技術や知識を習得できるよう、研修実施や資格取得支援制度等各種制度の充実を行いました。(表2)

◆主な取り組み

- ・ 資格取得支援制度、大学院留学制度等を継続して実施
- ・ 中央市民病院での人材育成センターの設置
- ・ 医事課及びMSW*のスキルアップを目的とした研修会の継続

グラフ24：資格取得支援制度利用者数推移



制 度	利用者数
資格取得支援制度	77名
短期国内外派遣制度	7名
看護職員長期留学制度	10名
看護職員大学院留学制度	7名

表2 主な制度の利用者数(H26~H29)

(3) 人材育成等における地域貢献

医師、看護師、薬剤師等医療系学生を積極的に受け入れを行い、人材の育成に貢献するとともに看護師の復職支援のための研修会の開催を行うなどの取り組みを継続して実施しました。

◆主な取り組み

- ・ 潜在看護師の復職支援のための研修会の開催
- ・ 中央市民病院で、がん薬物療法専門薬剤師の研修施設として他病院からの薬剤師の受け入れ
- ・ 西市民病院で、ベトナム・ダナン産婦人科・小児科病院の看護師・助産師の人材育成



若手の先輩看護師も参加し、学生と直接話をする機会を設けました。

写真22 合同就職説明会・内定者懇談会の様子

<CRC>

➢ Clinical Research Coordinator (治験コーディネーター)。治験実施医療機関において、治験責任医師または治験分担医師の下で治験に係る業務に協力する医療関係者のこと。

<レジデント制度>

➢ 実務経験に根ざした講義と臨床実務実習を通して、高度急性期医療・地域連携に対応した臨床能力を身に付け、チーム医療を実践できる医療技術職員を育成するため作られた制度。2年間の研修期間を設けている。

<MSW>

➢ Medical Social Worker。保健医療分野におけるソーシャルワーカーであり、主に病院において疾病を有する患者等が地域や家庭において自立した生活を送ることができるよう、社会福祉の立場から、患者や家族の抱える心理的・社会的な問題の解決・調整を援助し、社会復帰の促進を図る専門職のこと。

2. 働きやすくやりがいの持てる環境づくり

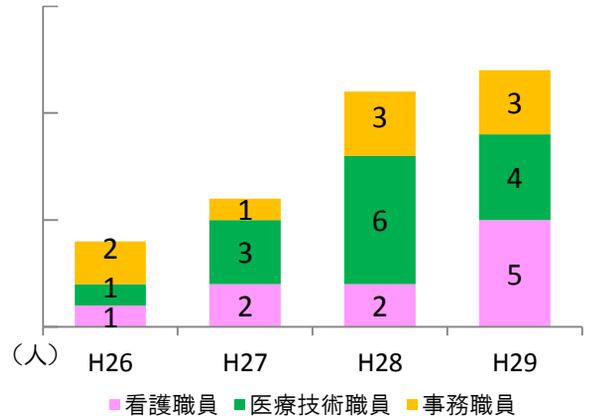
(1) 努力が評価され報われる人事給与制度等の導入

平成28年度より、**医師の人事評価制度を試行的に実施**するとともに、**医師以外の職種については本格実施**し、人事評価結果を基にして結果を給与等へ反映する等、職員の能力及び業績に基づく人事管理体制を整備しました。

◆主な取り組み

- ・ 医師の人事評価制度の試行的実施
- ・ 医師以外の職種についての人事評価制度の本格実施
- ・ 法人固有職員の係長昇任選考による優秀な職員の積極的な登用（グラフ25）

グラフ25：法人固有職員の係長昇任選考合格者数



(2) 働きやすい環境の整備

病院で働くすべての職員にとってやりがいが持て、働きやすい職場づくりを行うため、職員満足度調査等により職員ニーズを把握し、執務環境の改善や職員表彰などモチベーション向上につながる取り組みを実施しました。

平成26年度には**新港島寮（総数：198戸）が完成**し、医師や看護師の居住環境を整えました。

◆主な取り組み

- ・ 中央市民病院での院内保育所の受入れ定員拡充、病児保育室の運用開始及び西市民病院での院内保育所開設（写真23）
- ・ 全職員を対象とした職員満足度調査、メンタルヘルスチェック
- ・ **全正規職員に対して育児短時間勤務制度を導入**



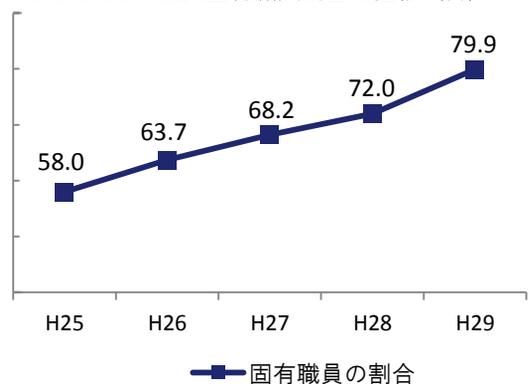
写真23 病児保育室（中央）と院内保育所（西）

人事に関する計画への取り組み

地方独立行政法人の柔軟性・機動性を生かし、医療需要等に応じて年度途中採用も行うことにより、柔軟な職員配置を行うことができました。その結果、医師・看護師等について適正な職員数を確保し、より良い医療を提供できる体制を整えることができました。

また、神戸市職員から法人職員への移行に伴う制度の整備を行う等、法人固有職員で運営できる体制への移行を計画的に促進し、平成30年度当初の**法人固有職員の割合は81.4%**となりました。（グラフ26）

グラフ26：法人固有職員割合の推移（%）



経営状況について

1. 安定的な経営基盤の維持

(1) 安定的な経常収支及び資金収支の維持

各診療科の特性の把握や分析等をテーマに、院長ヒアリングを実施し、各診療科や各部門に対して**経営改善の意識の向上**を図りました。

また、業務経営改善会議を毎月開催し、決算状況や各部門の取り組みについて報告や検討を行い、安定的な経営を維持するための取り組みを実施しました。

◆主な取り組み

- ・ 院長ヒアリング実施による現状分析、経営改善意識の促進
- ・ 業務経営改善会議の開催
- ・ 経営改善等をテーマとした外部講師による勉強会の開催

(2) 収入の確保

保険請求に関する委員会を毎月開催し、査定状況の報告や査定対策に向けた取り組みについて検討を行うとともに、適性な診療報酬請求に取り組みました。

また、診療報酬改定に際しては、情報収集や勉強会の開催等により、新たな加算の適切な取得や安定した収入の確保に努めました。

◆主な取り組み

- ・ 診療報酬に関する勉強会の開催、新たな加算の適切な取得
- ・ 未収金に対する病院間ノウハウの共有、回収率向上に向けた取り組みの継続
- ・ 研究奨励寄付金、**文部科学省認定の研究機関指定取得**など研究に関する財源確保に向けた取り組み

(3) 費用の合理化及び業務の効率化

診療材料について、法人本部及び各病院において、ベンチマークシステム※や他病院への聞き取り等の分析を踏まえた価格交渉を実施するとともに、適切な在庫管理や在庫削減に取り組みました。

また、後発医薬品については安全性を十分に評価したうえで導入を促進し、数量割合が上昇しました。

◆主な取り組み

- ・ 後発医薬品の導入促進
- ・ 医薬品業者に対して病院合同交渉の実施（写真24）
- ・ 入札や契約等に関する勉強会、研修会の開催

グラフ27：経常収益・経常費用（億円）



写真24 医薬品合同交渉説明会・入札研修会の様子

<ベンチマークシステム>

- 全国の医療機関の医療材料・医薬品等の最新購入価格をインターネット上で照会・比較することができるシステム。

2. 質の高い経営ができる病院づくり

(1) 質の高い経営体制の維持

常任理事会及び理事会を定期的に開催し、経営状況や経営改善策の報告を行い、活発な議論を行うとともに迅速な意思決定を諮り、円滑な病院運営に取り組みました。

(2) 計画的な投資の実施

高額医療機器の購入や更新については、投資効果等を検証したうえで計画的に導入を進めるとともに、適切な予算執行管理に取り組みました。

また、建物についても増築及び既存施設の改修を行い、医療機能や職員の執務環境を充実させました。(写真25)

◆主な取り組み

- ・ 中央市民病院で港島寮（198戸）の完成
- ・ 西市民病院で電子カルテ、ダヴィンチの導入
- ・ 中央市民病院で北館・研修棟の完成。西市民病院で東館の完成
- ・ 中央市民病院で井村記念・南館の改修、運用開始
- ・ 神戸アイセンター病院の完成
- ・ 西神戸医療センターでPET-CTの導入



写真25 大規模投資

(3) 環境にやさしい病院づくり

神戸市が策定し、取り組んでいる「神戸市地球温暖化防止実行計画」の実現に向けて、温室効果ガスの削減やエネルギー資源の消費を節減するなど、環境にやさしい病院づくりに引き続き努めました。また、中央市民病院では神戸市が推進する水素発電事業の実証実験に協力し、水素発電によって作られたエネルギーを活用しました。

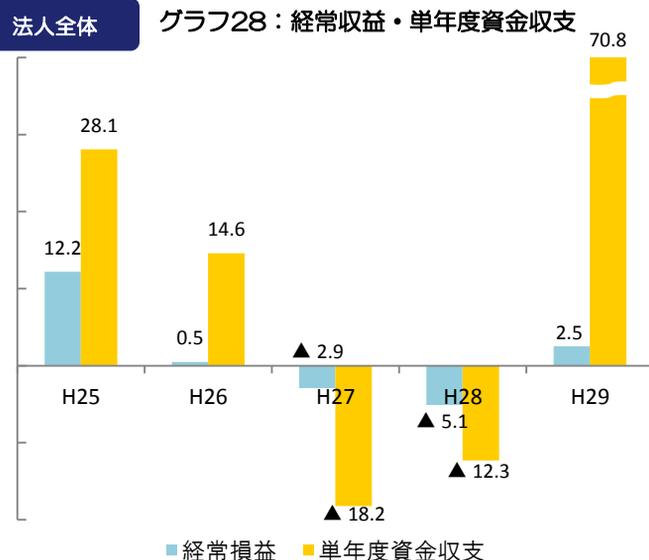
決算概要について

◇◆H25～29の決算概要◆◇

26年度まで6期連続で経常黒字を計上してきましたが、診療報酬改定や消費税の改定等、医療を取り巻く環境が厳しさを増す中、27、28年度の経常損益及び当期純損益は赤字となりました。

早期に経常赤字から脱却し、安定的な経営基盤を確立することを目標に、DPC入院期間を意識した病床運営、地域医療機関との連携推進による新規患者の確保、費用の削減等の経営改善策に引き続き取り組むとともに、移管・統合後の円滑な運営、各病院の診療機能の強化等を図りました。

職員が一丸となり経営改善の取り組みを進めたことにより、平成29年度決算における経常損益は2.5億円、当期純損益は4.1億円の黒字となり、3年ぶりの黒字を達成しました。(グラフ28)



※H28には、アイセンター病院の開設準備費▲0.1億円を含む

◆◆各病院の決算推移◆◆

① 中央市民病院

診療報酬改定や消費税の改定等、医療を取り巻く環境が厳しさを増す中、27、28年度の経常損益は2年連続の赤字となりました。29年度は先端医療センター病院との統合に伴い、救急医療体制等の機能強化を図ったほか、ダヴィンチ手術等高度専門医療の実施、外来化学療法件数の増による診療単価の上昇等により、入院・外来ともに前年度を上回る収益を確保しました。

また、医療の質向上や医療安全の確保等に十分配慮した上で、引き続き効率的かつ効果的な体制構築に取り組むとともに、経費の節減等に努めた結果、29年度の経常損益は目標を上回る4.0億円の黒字となりました。

② 西市民病院

紹介・逆紹介の積極的な推進や在宅医療への支援を含め、地域医療機関との連携強化を図るとともに、平成29年度は地域包括ケア病棟を導入し、リハビリ実施体制を強化したことにより収益の確保を図りました。

医療サービスの質の維持・向上を図りながら、診療材料費や医薬品などについて費用の節減に取り組んだものの、近隣地域の少子高齢化や医師の異動等による患者数の減により、外来収益が減少したことなどから、27年度から29年度の経常損益は3年連続の赤字となりました。

③ 西神戸医療センター

地域医療機関とのさらなる連携により、新入院患者を確保するとともに、平均在院日数が短縮されました。また、外来化学療法件数の増による診療単価の上昇等により、入院・外来ともに移管前を上回る収益を確保しました。

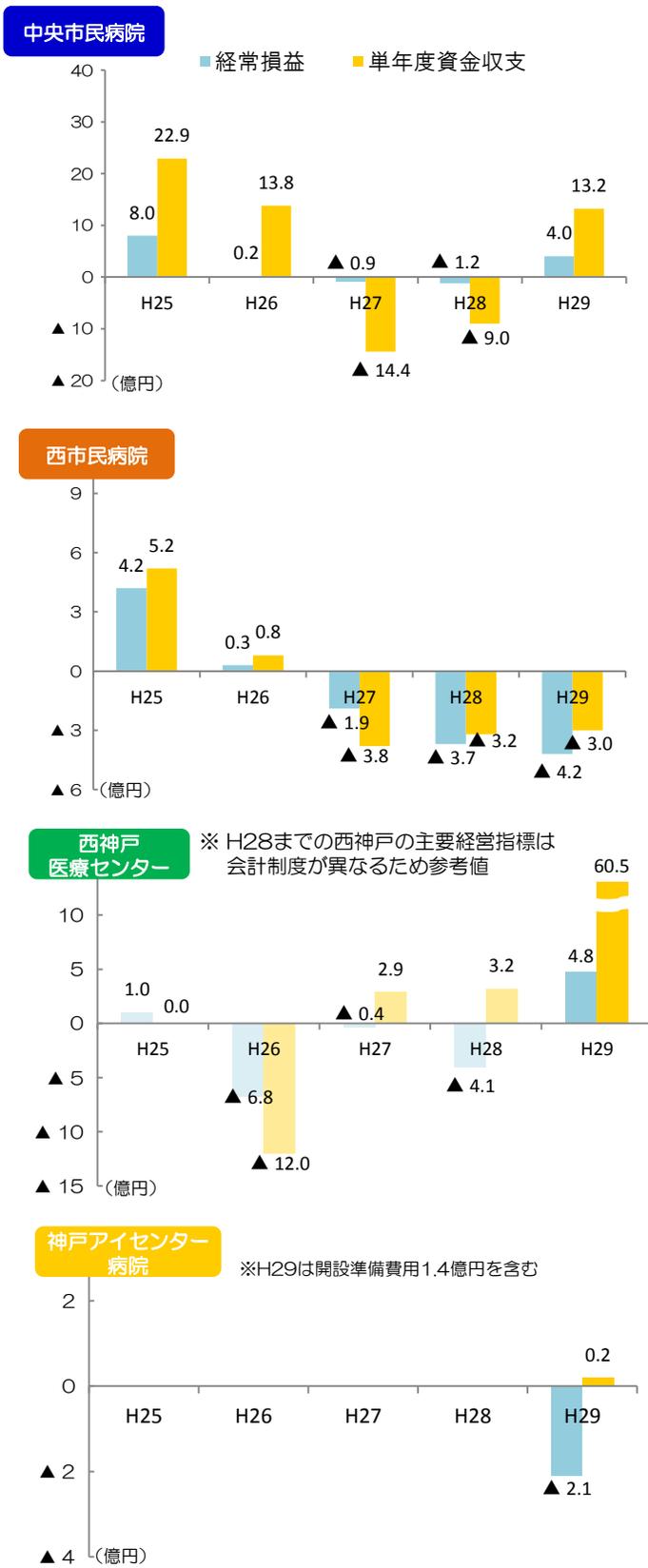
神戸市から土地・建物が当機構に出資されたことに伴う賃料の減等、費用も縮減されたことから、経常損益は4.8億円の黒字となりました。

④ 神戸アイセンター病院

中央市民病院及び先端医療センター病院の患者を着実に引き継ぐとともに、積極的な広報等により患者の確保を図りました。

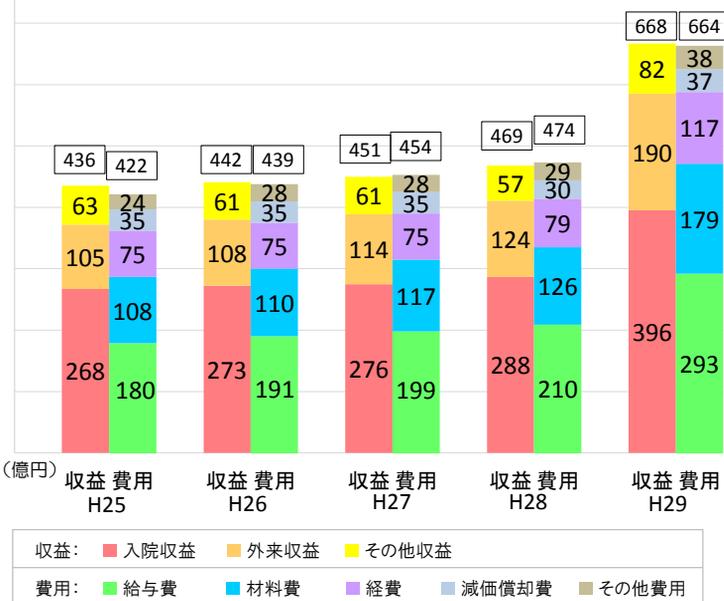
当初計画として開院3年目の黒字を目指しているところであり、開院初年度は初期備品整備など開設準備費用を要することや、開院4か月の収支であることから、経常損益は2.1億円の赤字となりました（開設準備費用を除いた場合、0.8億円の赤字）。

グラフ29：経常収支・単年度資金収支（病院別）



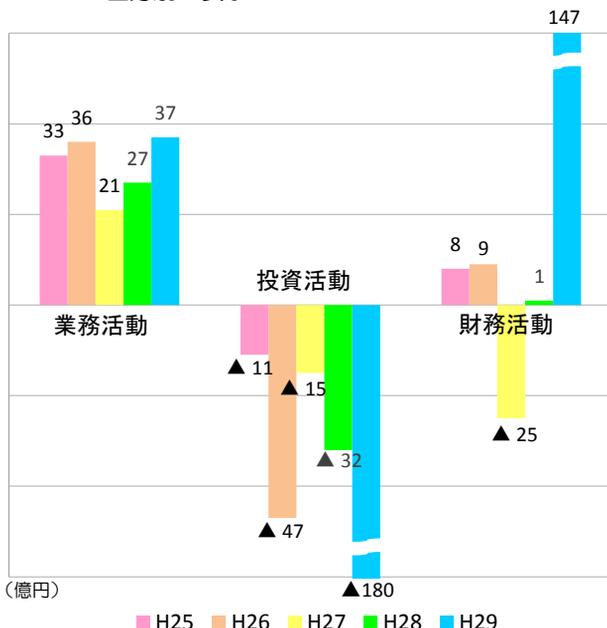
◆◆財務諸表の概要◆◆

グラフ30：損益計算書 ▶ 各事業年度における法人の経営成績



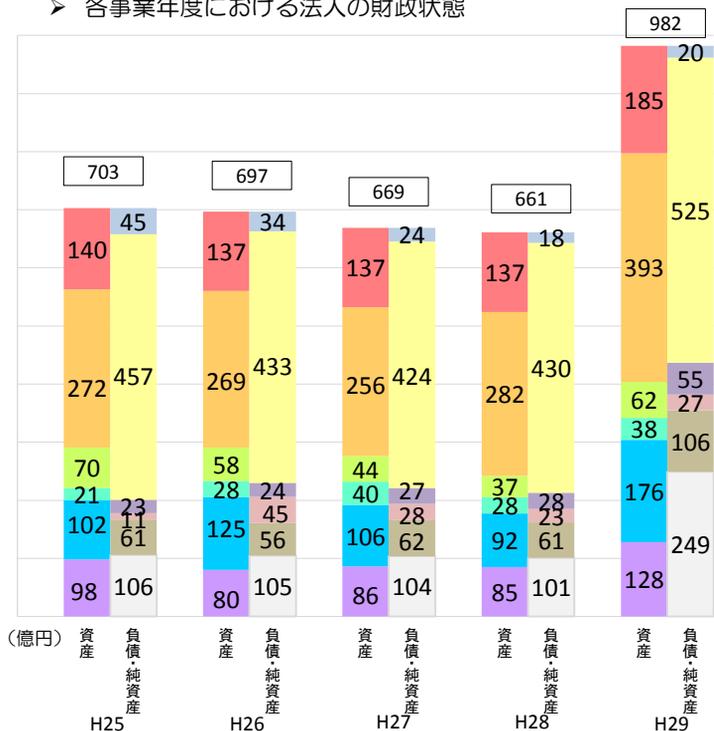
グラフ32：キャッシュ・フロー計算書

▶ 各事業年度の現金及び預金の増減を活動区別に表示



グラフ31：貸借対照表

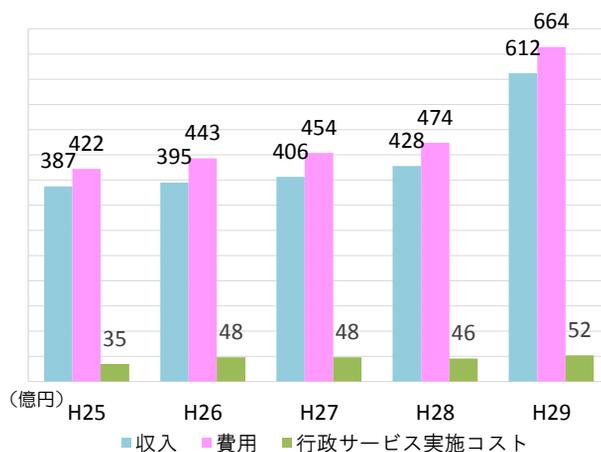
▶ 各事業年度における法人の財政状態



・ 平成29年度末の現金及び預金残高（定期預金含む）は176億円となっています。

グラフ33：行政サービス実施コスト計算書

▶ 納税者が実質的に負担しているコスト



・ 平成29年度末の行政サービス実施コストは52億円となりました。

資産: 土地	建物・構築物含む	工具器具備品ソフトウェア等	その他固定資産	現預金	その他流動資産
負債: 資産見返負債	借入金	その他固定負債	借入金(1年以内返済)	その他流動負債	
純資産: 純資産					

PFI事業・市関連病院連携・神戸医療産業都市

1. 中央市民病院のPFI事業の円滑な推進

病院経営のパートナーであるPFI事業者※との連携をより緊密にし、最適な患者サービスや質の高い病院サービスの提供に向け定期的にモニタリングを行うなど、業務水準の達成状況を確認し、病院運営の効率化を図りました。

平成29年度は、**PFI事業導入後5年間の実施状況の検討**を行いました。外部コンサルタントにおいて、数値比較や関係者へのヒアリングを行うなど、定量的・定性的な評価のための検証をしました。

2. 市関連病院との連携

各部署において必要な準備を行ったうえで、平成29年4月に**西神戸医療センターを移管**し、同11月に**先端医療センター病院を中央市民病院へ統合**しました。

統合後も引き続き、病院間において、医療機能に応じた患者の紹介・逆紹介を行うとともに、各部門での連携会議や人事交流を行い、連携の促進を図りました。(グラフ34)

◆主な取り組み

- ・ 各部門における連携会議の定期的な開催による情報交換等の実施
- ・ 中央市民病院及び西市民病院における患者の円滑な転院・転送に関する運用及び電子カルテの相互閲覧環境整備
- ・ **第1回4病院合同学術研究フォーラムの実施** (写真26)

3. 医療産業都市における役割

中央市民病院において、近隣の医療機関と定期的に連携会議を開催する等、臨床機関としての役割を発揮したうえで連携強化を図りました。(グラフ35)

また、**臨床研究中核病院を目指した体制の検討**を進めるとともに、メディカルクラスター※連携推進委員会に参加し、市関連病院及びメディカルクラスター内の病病連携等について取り組みました。

◆主な取り組み

- ・ iPS細胞移植に関する実施体制を発足
- ・ 臨床研究中核病院を目指した体制の検討
- ・ 近隣病院との定期的な連携会議の開催
- ・ 神戸低侵襲がん医療センターへの乳腺外科医師派遣の継続による病病連携の推進

グラフ34：中央市民病院の市関連病院との連携件数の推移

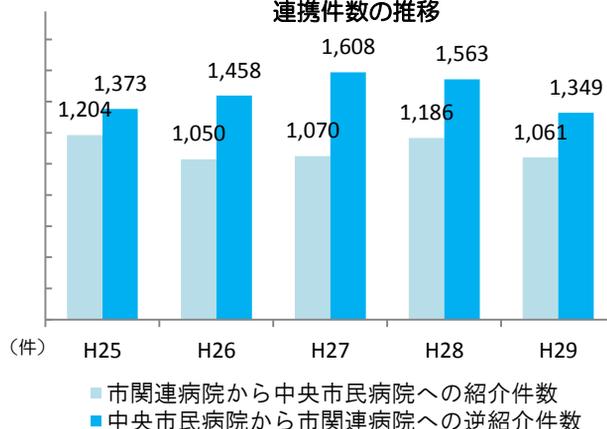
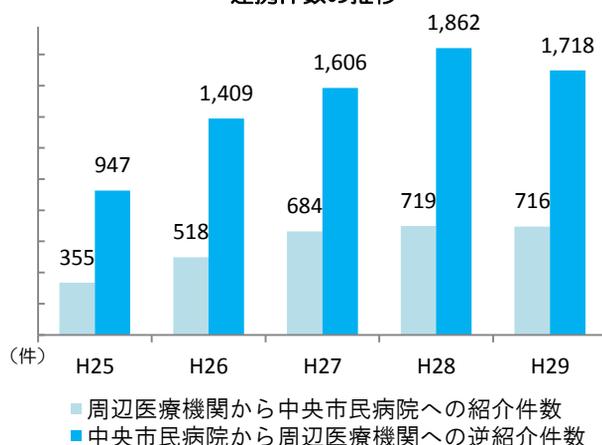


写真26 第1回4病院合同学術研究フォーラムの様子

グラフ35：中央市民病院の周辺医療機関※との連携件数の推移



<PFI事業者>

- 公募提案した共同企業体（株式会社神戸メディカルケアパートナーズ）が、中央市民病院においてPFI方式で整備運営事業を実施している。

<メディカルクラスター>

- 神戸医療産業都市における理化学研究所や大学等の研究機関および中央市民病院をはじめとした高度専門病院群のこと。

<周辺医療機関>

- 周辺医療機関は神戸低侵襲がん医療センター、西記念ポートアイランドリハビリテーション病院、一般財団法人神戸マリナース厚生会ポートアイランド病院及び平成28年5月1日に開院した県立こども病院等

